



大樹のこころ

ツルを守ろう大作戦

最近、本校では一つ心配な事案がありました。それは「子供たちが廊下を走る」ということです。現在校舎改修工事の関係で、一部の廊下が手狭になっています。普通に歩いても不便さを感じることがあります。そこに数日來の雨も重なり、外遊びができなくなっているため、子供たちのストレスが溜まってきています。それを発散しようとの如く、廊下を走る子が増えてきています。狭い廊下で走る行為は、怪我に繋がる恐れがあり、対策を取る必要が出てきました。

さて、このような状況を改善するために、どのようにしたらいいのでしょうか。シンプルに思いつくのが教師による指導です。効果はそれなりに期待できますが、「叱られるからやらない」というのであれば残念です。この機会に子供たちにマナーや道徳心を育むことはできないかと思案していました。

折しも27日(月)に委員会がありました。各委員会の活動の様子を見て回ったのですが、教師側の「廊下で走る子がいて危険だ」という認識は、子供たちも持っていることがわかりました。代表委員会、生活委員会、保健委員会の3つの委員会が「廊下で走らないようにするため」の対策について、話し合っていました。この姿に感激です。教師の指導ではなく、子供たちの「自主的活動」によって生活改善をしていくことは、学校教育において大切なことです。言われて従うのではなく、自分たちで問題点を見出し、対応策を考えて実践していく。このような過程を通して、子供たちの中に本物の道徳心や礼儀が生まれてくるのです。

廊下問題に一番密接に関係しているのが、生活委員会です。生活委員会では次のような作戦が立てられました。一つ目はお昼の放送で「廊下を走らない」ことを呼びかける啓蒙活動です。二つ目はスローガンを作成してキャンペーンを張ること。そして三つ目は折り鶴を用意して、それを廊下に並べて置くというものでした。折り鶴を置くのは「鶴を蹴らないで歩く」を目標とし、走る子を減らしていこうというねらいです。実に面白い。この折り鶴作戦とリンクして、スローガンは「ツユだ！ツルを守ろう大作戦」になっていきました。「廊下を走らない」というのではなく「鶴を守る」というポジティブな活動にしているところがミソ。子供たちの発想の豊かさに拍手です。準備に時間がかかるので、実際には6月に入ってから活動となります。「ツルを守ろう大作戦」の効果はいかに。今からどのようになるのか楽しみにしています。



愛知県警自転車部隊 B-Force の皆さんをお招きして、3年生で交通安全教室が実施されました。交通安全について楽しく学ぶ機会になりました。